

カイトソサエティ(長野高校合唱班OB・OG会) 役員・実行委員

会 長 堀内 征治 (男声合唱OB)  
副 会 長 名取 敦子 (女声合唱OG)  
吉川 泰 (男声合唱OB)  
富林 花苗 (混声合唱OG)  
事務局長 ミツ木辰巳 (男声合唱OB)

[ 運営事務局 ]

事務局長 ミツ木辰巳 (事務局統括、財務、会員管理)  
総 務 沼田 稔 (会場予約、会合運営等)  
渉 外 内田 修 (外部機関折衝等)  
財 務 佐野 秀和 (会計管理および財務計画等)  
会員管理 住澤 則夫 (名簿管理、連絡発信等)  
吉川 泰 ( 同 )  
広 報 木我 和由 (情報管理、記録等)

[ 技術部 ]

技 術 塚越 憲二 (演奏計画、練習企画、練習運営等)  
小早川邦彦 ( 同 )  
松本 孟 ( 同 )



カイトソサエティ(長野高校合唱班 OB・OG会)  
<http://naganohschorob.sakura.ne.jp/>



[ お問い合わせ ] 事務局 tel 026-241-4414 e-mail nhschp@naganohschorob.sakura.ne.jp

Design : Miyakawa Hiroshi

仲間が集い、歌で羽ばたく

[長野高校創立120周年記念]  
長野高校合唱班OB・OG会

# カイトソサエティ 特別演奏会

2019年

9/8 日 開演 14:00  
(開場 13:30)

長野市芸術館リサイタルホール

後援

長野高等学校金鷲会(同窓会)

長野県合唱連盟

信濃毎日新聞社

朝日新聞長野総局

SBC信越放送

NBS長野放送

TSBテレビ信州

abn長野朝日放送

## 仲間が集い、歌で羽ばたく



ごあいさつ

カイトソサエティ 会長 堀内 征治(1964年卒)

母校長野高校の創立120周年記念式典が来る10月19日に举行されますことは、母校に関わる多くの方々、ならびに多数の市民の皆様の周知とすることです。卒業生の一人としても大変うれしく、この慶事を心からお祝い申し上げます。そして、その学び舎で合唱に明け暮れた私どもが、母校の記念すべき節目の年を寿ぐために、このように盛大に特別演奏会を開催できますことはこの上ない喜びであります。ご後援いただいた長野高等学校金鷄会をはじめ報道各社様、客演の先生方、そしてご多用の中ご来場いただきましたお客様に深く感謝申し上げます。

ご承知のように、長野高校合唱班の定期演奏会が今年は46回を数えました。OBとして誇らしく、その長い歴史に深い感慨を覚えます。そして、1965年のカイトソサエティの誕生からは54年目の秋を迎えます。この長い期間を「歌うとんびの仲間」として活動できた原動力は、まさに歌の力であり、脈々と流れる伝統、そして先輩後輩の絆の強さを感じています。

カイトソサエティは男声合唱OB会としてスタートしましたが、近年は現役合唱班が混声合唱団として活躍している現状に鑑み、改めてカイトは、「長野高校合唱班(女声合唱班を含む)のOB・OGの会」の愛称とし、昨年2月に新たな運営体制を整備しました。そして、現役への支援を軸としながら、会員相互の交流を深めるとともに、継続的な合唱活動なども行う組織としての飛躍を果たしてまいりたいと思っております。

今後も本会への一層のお力添えをお願いするとともに、「仲間が集い、歌で羽ばたく」のテーマのもと、幅広い世代の卒業生が多彩なジャンルでお届けする本日の演奏を少しでもお楽しみいただければ幸いです。

### 《カイトソサエティ》

長野高校合唱班の卒業生によって構成されるOB・OG会。愛称の「カイトソサエティ」の由来は母校校章の金鷄(KITE=「鷄」)による。1965年に結成され、現在の会員は約600名。

第1回演奏会を1966年に開催以降、定期演奏会・特別演奏会による演奏活動と、現役合唱班の支援を軸に活動を続け、現在に至る。母校創立100周年では記念事業の一つである「金鷄健児愛唱歌集」CD制作に関わり、校歌をはじめ20曲にも及ぶ応援歌、班歌を収録した。このCDは、同窓生などから好感をもって受け入れられた。



第1回定期演奏会(1966/4/3)

## 演奏曲目



### 混声合唱のための唱歌メドレー

#### 「ふるさとの四季」

編曲：源田 俊一郎  
指揮：吉川 泰  
ピアノ：三水 万由子

「故郷(ふるさと)」	「われは海の子」
「春の小川」	「村祭り」
「朧月夜(おぼろづきよ)」	「紅葉(もみじ)」
「鯉のぼり」	「冬景色」
「茶摘(ちやつみ)」	「雪」
「夏は来ぬ」	「故郷(ふるさと)」



### 男声合唱組曲

#### 「山に祈る」

構成・作詞・作曲：清水 脩  
指揮：宮下 莊治郎  
ピアノ：深沢 雅美  
朗読：三島 さやか

「山の歌」
「リュック・サックの歌」
「山小屋の夜」
「山を憶う」
「吹雪の歌」
「おかあさん ごめんなさい」

### 休憩



カイトソサエティメンバーと長野高校合唱班によるアラカルトステージ

### 時代をつないで

#### 男声合唱

男声合唱組曲「柳河風俗詩」より

#### 「柳河」

作詩：北原 白秋  
作曲：多田 武彦  
指揮：三ツ木 辰巳

男声合唱組曲「月光とピエロ」より

#### 「秋のピエロ」

作詩：堀口 大学  
作曲：清水 脩  
指揮：佐野 秀和

#### 女声合唱

さくらもこの詩による  
無伴奏女声合唱曲「ぜんぶ ここに」より

#### 「ぜんぶ」

作詩：さくらもこ  
作曲：相澤 直人  
ピアノ：奥原 もな美

#### 混声合唱

混声合唱曲集「光と風をつれて」より

#### 「秋のまんなかで」

作詩：工藤 直子  
作曲：木下 牧子  
指揮：吉川 泰  
ピアノ：薦野 淳子

混声合唱組曲「明日へ続く道」より

#### 「明日へ続く道」

作詩：星野 富弘  
作曲：千原 英喜  
指揮：吉川 泰  
ピアノ：薦野 淳子

混声合唱組曲「旅のかなたに」より

#### 「歌」

作詩：谷川 俊太郎

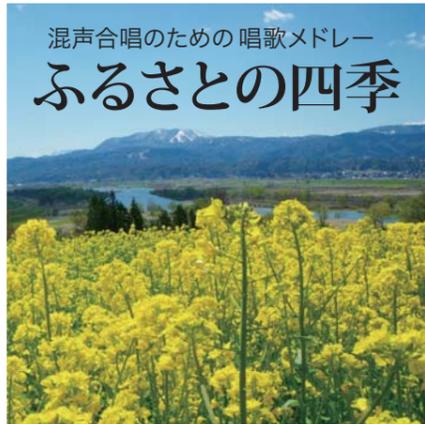
#### 「旅のかなたに」

作詩：室生 犀星  
作曲：信長 貴富  
指揮：松本 祐子  
ピアノ：小林 夏実  
合唱：長野高校合唱班

混声合唱曲

#### 「言葉は」

作詩：谷川 俊太郎  
作曲：信長 貴富  
指揮：小早川 邦彦  
ピアノ：深沢 雅美  
合唱：カイトソサエティ & 長野高校合唱班



46回を数える長野高校合唱班定期演奏会で「ふるさとの四季」を現役生徒と合同で歌うようになって、もう何年が経つのでしょうか。若い世代にとって100年あまり昔の唱歌の数々は、ともすればもはや古典の世界に感じられるかもしれません。熟年世代にしても子どもの頃、春の小川で小鮒を釣ったり、煙たなびく苦屋に住んだり、冬の畑で麦踏みをしたことがあるという人はずいぶん少なくなつたように思います。しかしこの唱歌のほとんどは今も小学校の音楽教材として引き継がれ、私たちの心のどこかにこの国の原風景として記憶され続けています。

この唱歌メドレーの冒頭と最後に歌われる「故郷」の一言一音に、私たちはそれぞれの人生15年から76年の間に育んだ「ふるさとへの思い」を込めたいと思います。時代は異なってもかつて同じ学舎で歌い、そして故郷を後にし、ある者は長野に戻り、ある者はすっかり他郷になじみ、また退職を機に故郷に戻ってきた者もあり、今は各々別々の人生を歩んでいます。しかし私たちには長野という共有できる故郷があります。そこにこうして集まることのできる仲間、先輩、後輩がいます。そしてともに歌うことで、皆様に私たちの願いをお伝えすることができます。

ふるさと長野がいつまでも「山はあおき、水は清き」姿であり続けますように。

吉川 泰(1981年卒)



「山に祈る」は、山岳遭難事故が多発して社会問題化していた1959年、長野県警察本部が遭難防止の啓蒙のため、遭難者の遺族達の手記を集めて作成した小冊子でした。

当時人気の男声ヴォーカル・グループだったダークダックスは、この小冊子の巻頭に掲載された上智大学山岳部の飯塚陽一さんの遭難を、彼の残した日記と母の手記によって合唱組曲に創作する企画を立て、清水脩に構成・作詞・作曲を依頼しました。

できあがった曲は、一人の遭難者が山で書き残した最後の手記と、わが子を亡くした母の悲しみを、母の朗読と合唱で綴る形を取っています。作曲者は、できるだけポピュラーなものになることを心がけ、誰もがすぐ口ずさめる親しみやすい平易なメロディーを用いたそうです。

母による手帳の朗読で遭難までの物語が語られる中、歌は物語の情景や情緒を表現していきます。主人公の元気な姿から死に至る物語に合せて、曲は明るい曲調から次第に激しい表現と効果的なヴォカリーズを伴いながら、暗い曲調に変わっていき、聴く者の心を揺さぶります。

長野高校合唱班とカイトソサエティでは、初期の頃から大切なレパートリーとして何度となく本作品を取り上げてきました。

小早川 邦彦(1982年卒)



このステージでは、**長野高校合唱班の歴史をたどりながら、その折々に絆を深めあったメンバーが愛唱してきた曲を演奏します。**

それぞれの曲目については**本日の指揮者の思い入れを含めてご紹介いたします。**

男声合唱組曲「柳河風俗詩」より  
**「柳河」**

北原白秋の郷里、福岡県柳川の夕暮れ時を叙情豊かに歌い上げる男声合唱の定番と言える名曲です。作曲者の多田武彦は、日本の情景や日本人の想いを多くの曲に読み込んで世に出してくれました。男声合唱を経験した者なら必ずといっていいほど知っていることでしょう。高校時代は混声合唱でも大学に進んで男声合唱に浸りきった若い会員もいます。世代を超えてこの響きを共有し、その魅力を発信していきたいものです。

三ツ木 辰巳(1971年卒)

男声合唱組曲「月光とピエロ」より  
**「秋のピエロ」**

世に数多ある男声合唱団の多くがレパートリーとしている作品です。清水脩作曲の男声合唱組曲「月光とピエロ」の二曲目にあたりますが、「秋のピエロ」はもともと単曲の男声合唱曲として、第1回全日本合唱コンクールの課題曲のために作曲されました。この曲が好評を得たことによって作られた組曲「月光とピエロ」は、世界で初めての合唱組曲でもあります。溢れ出す涙に込められたピエロの思い、悲しみを感じ取っていただければ幸いです。

佐野 秀和(1998年卒)

さくらもこの詩による  
無伴奏女声合唱曲「ぜんぶ ここに」より  
**「ぜんぶ」**

私たちの高校生の時は、とても少ない人数で活動していました。なので、普段の練習は学生指揮者を中心に、班員同士で意見を言い合いながら和気藹々と歌い、「小さな家族」のような居心地の良い空間でした。当時は混声でしたが、今回は女声合唱で新たに「ぜんぶ」に取り組みました。さくらもこさんの優しい言葉を、女声合唱の柔らかな響きで皆さんにお伝え出来たら…と思っています。ピアノは1992年卒の奥原もな美でお送りします。

和田 浩美(1991年卒)

混声合唱曲集「光と風をつれて」より  
**「秋のまんなかで」**  
混声合唱組曲「明日へ続く道」より  
**「明日へ続く道」**

「秋のまんなかで」は、長野高校合唱班の第40回定演、第45回定演で演奏した組曲「光と風をつれて」の2曲目で、さわやかで味わい深い作品です。木下牧子の作品は、「方舟」「ティオの夜の旅」「ネロ」「44わのべにすずめ」など、現役生がしばしばとりあげ歌ってきました。

「明日へ続く道」は2012年Nコン課題曲で、前年の大震災を題材にした鎮魂と励まし作品です。この曲が「もう一度」(同じ詩によるアカペラ作品)か、どちらかを選ぶという珍しい課題曲設定でした。第44回定演では、組曲「明日へ続く道」全曲を演奏しました。

吉川 泰(1981年卒)

[ 賛助出演 長野高校合唱班 ]  
混声合唱組曲「旅のかなたに」より  
**「歌」「旅のかなたに」**

極限まで言葉を絞り読み手の想像力をかきたてる、谷川俊太郎作詩の「歌」。一つひとつの言葉に無限のイメージを込めてお届けします。一方、文語体による室生犀星作詩「旅のかなたに」は、高校生が歌うことでより新鮮さを放つことでしょうか。悲しみの中、それでもしっかりと地面を踏みしめて前に進む決意をピアノの旋律にのせて表現します。先日の定期演奏会のためにこの曲集を選んでもくれた3年生と一緒に演奏できること——これ以上の幸せはありません。

松本 祐子  
(長野高校合唱班顧問)

[ カイトソサエティ & 長野高校合唱班 ]  
混声合唱曲  
**「言葉は」**

長野県合唱連盟がその50周年を記念して信長貴富に委嘱した作品です。2012年6月10日にまつもと市民芸術館で開催された第50回長野県合唱祭において、伊東恵司指揮で初演されました。「言葉」を様々なものにたとえた谷川俊太郎の詩に、そのことばに命を与えるように巧みに作曲されています。作曲者は、佐藤眞の「大地讃頌」のように全国津々浦々で歌われる合唱曲となることを願っていたそうですが、昨年長野市で開催された全国高等学校総合文化祭合唱部門の全体合唱で歌われるなど、近年は広く歌われるようになってきました。

小早川 邦彦(1982年卒)

# 出演者プロフィール

## 客演

ピアノ 深沢 雅美



長野市出身。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部ピアノ科、同研究科修了。PTNAピアノ・コンペティション特級デュオ部門全国大会において奨励賞・ソニー賞を受賞。「N響メンバーによる室内楽の夕べ」に出演するなど、ウィーン室内アンサンブル、カール・ライスター、ペーター・シュミードル、ストリング・クワルテットARCO、傳田高広、伊藤亮太郎各氏などの世界的な演奏家と共演。これまでに、大島妙子、岡部由美子、斎木隆、故・大島正泰、A. ペピチェリ、J.F.エッセー、の各氏に師事。現在、桐朋学園大学音楽学部附属「子供のための音楽教室」長野教室講師、長野県小諸高等学校音楽科講師。ソロ、室内楽、デュオなど演奏活動を行っている。松本ピアノ協会副代表。

ピアノ 蔦野 淳子



武蔵野音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。ピアノを和田幸子、角丸幸子、倉沢康子の各氏に師事。ピアノ指導者セミナー「こまくさ」会員。飯綱コーラス・さわやか合唱交流会合唱団などの伴奏を務める。現在、倉沢音楽教室講師、清泉女学院短期大学非常勤講師。2016、17、18年には、長野高校合唱班定期演奏会の第1～第3ステージのすべて、さらにNHK・朝日のコンクールすべてのピアノを担当。

ピアノ 小林 夏実



長野市出身。桐朋学園大学音楽学部ピアノ専攻卒業。第17回長野県ピアノコンクール大賞受賞。第16、17回日本クラシック全国大会入選。第12回JILA音楽コンクールピアノ部門第2位。これまでにピアノを服部秀子、深沢雅美、玉置善巳、アンジェロ・ペピチェリ、ジュゼッペ・マリオッティ、ミハエル・クリストの各氏に師事。室内楽をアンジェロ、フランチェスコ・ペピチェリの両氏、吉川朝子氏に師事。現在、ヒオキ楽器店ピアノ講師を務める傍ら長野市を中心に演奏活動を行っている。

## 客演

朗読 三島 さやか



長野市出身。長野市立更北中学校から県立長野高等学校へ。高校時代は「文芸班」に所属。立教大学法学部を卒業後1996年信越放送に入社。97年～98年『オリンピック夢パーク』キャスター、ラジオ番組『モーニングワイドラジオ』パーソナリティや、ドキュメンタリー番組『SBCスペシャル』の制作やナレーションなどを担当。2000年～2006年、2009年～現在まで『SBCニュースワイド』（月～金18:15～）を担当。キャスターおよび記者として地域密着のニュース制作に取り組んでいる。2006年JNNアンソニストコンクール・テレビナレーション部門において最優秀賞受賞。

## 賛助出演

長野高校合唱班



第46回定期演奏会フィナーレ (2019/6/30)

1948年、新制高校の発足とともに有志が男声合唱活動を開始してから約70年—創立120周年を迎える本校の課外活動においても、長い伝統を有する班活動の1つである。また、1974年に第1回が開催された定期演奏会は本年第46回を数えるに至り、6月30日(日)カイトソサエティからの協力も得ながら大盛況のうちに幕を閉じた。この間、1975年の女声合唱同好会発足を経て、1986年に混声の合唱班になり現在に至っている。近年は班員数20名前後、女生徒の人数がやや上回る編成の中、混声合唱団としての歴史を継承している。

継承しているのは、定期演奏会の開催やコンクール参加といった目に見え記録に残るものばかりではない。不断の努力に裏打ちされた「自分たちの力で達成する、実現する」という伝統である。定期演奏会で「企画ステージ」として定着しているミュージカルは、そのすべてを班員が手掛け、フィナーレにふさわしい華のあるステージをつくりあげている。なお、今年度の全日本合唱コンクール長野県大会では金賞一位を獲得し、9月28日に岐阜県で開催される中部支部大会に出場を決めている。

## 会員

指揮者 宮下 荘治郎



長野高校を1967年に卒業。合唱班に所属し、3年時には学生指揮を務め、毎日学生音楽コンクールにおいて県大会優勝を果たす。

信州大学教育学部音楽科卒業。山本昇・林源二郎(指揮法)、竹内邦光(作曲法)、飯田忠文(声楽)の各氏に師事。村谷達也・鈴木憲夫各氏から合唱指導法を学ぶ。教職を定年退職し、「男声合唱団ZEN」をはじめ県内合唱団5団体の指導にあたっているほか、小中学校の音楽指導や合唱コンクール等の審査にも招かれている。現在、諏訪中央病院看護専門学校非常勤講師。茅野市在住。

カイトソサエティ メンバー  
(長野高校合唱班OB・OG会)

カイトソサエティ会員のうち、卒業して間もない大学生から70代のベテランまでのメンバーが、それぞれの得意なステージに挑戦。最終の演奏曲では約90名のメンバーでの熱唱が実現することに…。長野市近郊のメンバーの月1回の練習を軸に、東京での練習、夏の強化練習などで徐々にハーモニー感もよみがえり、本日の演奏に至っている。なお、第1ステージの「ふるさとの四季」は、昨年度まで長野高校合唱班の顧問を務めた吉川泰(1981年卒)の指揮、そしてピアノは大学生の三水万由子(2019年卒)でお送りする。



長野高校合唱班・第46回定期演奏会(2019/6/30) 第4部に賛助・出演



混声合唱 男声合唱